

○ 園芸農家・育苗業者の皆様へ ○

クロピラリドによる生育障害について

クロピラリドとは

- ・主に米国, カナダ, 豪州で飼料作物に使用される除草剤の成分です。
- ・それらの国から輸入された飼料には成分が残留しており, 家畜に給与された場合、堆肥を通じて、ナス科、マメ科、キク科等の農作物に生育障害が出ることがあります。



どのような障害がでるの？

- ・主に葉がカップ状になったり, わん曲したりします。
- ・類似した症状は, 土壌養分の過剰欠乏や病害虫, 薬害などにもあるので, 慎重な検討が必要です。

(症状の例)



品目：トマト
症状：葉の異常



品目：さやえんどう
症状：葉がカップ状になる



品目：きく
症状：葉の異常

海外の飼料の輸入を止めることはできないの？(国QA)

- ・国内で使われている飼料の多くを輸入飼料に依存しており, 輸入を止めた場合は畜産業が成り立たなくなるため, 輸入を止めることはできません。

堆肥や飼料の成分分析で発生程度の基準はないの？(国)

- ・分析機器で検出できる下限値以下の成分量でも発生する例もあるため, 基準は設けられていません。

広島県内では発生したことがあるの？

- ・県内での発生報告はありません。全国では18県から65件(平成30年7月現在)の報告があります。



どうすればいいの？



被害を未然に防止するために

クロピラリド耐性の弱い作物は以下のとおりです。これらの作物を栽培する際は、次のことに留意しましょう。

- (1) **ポットで栽培**する場合は、**家畜由来堆肥の利用を控え**ましょう。
- (2) **施設で栽培**する場合は
 - ① **家畜由来堆肥の投入量を多すぎない**ようにしましょう。
 - ② **家畜由来堆肥を施用する場合は、土壌とよく混和**しましょう。

被害を受けやすい作物(耐性の弱い作物)

- 特に弱いもの** トマト、ミニトマト、大豆、えだまめ、さやえんどう、そらまめ
キク、ヒマワリ、コスモス、アスター、スイートピーなど
- 弱いもの** ピーマン、ナス、さやいんげん、にんじん、しゅんぎくなど

疑わしい生育障害が発生した場合は

- ・発生した場合は、現在のところ有効な軽減技術はありません。
- ・様々な原因を検討した結果、クロピラリドと疑われると思われる場合は、最寄りの農協、農業技術指導所または農業技術課に相談してください。
- ・関係機関で情報収集を行い、次作へ向けた対策を検討します。

～ 参考 ～

- ① クロピラリドは、広葉雑草(クローバーなど)を枯らす除草剤の成分で、我が国が粗飼料や穀類の多くを輸入している米国、豪州、カナダ等の各国で使用されています。(我が国では申請がなく農薬登録されていません)。
- ② クロピラリドは、家畜の体内から速やかに排出され、家畜や人に対する毒性が低いため、飼料に含まれていても、**家畜や人の健康に影響を及ぼす心配はありません**。
- ③ クロピラリドに対する感受性は、作物や品種により大きく異なります。イネ科作物は耐性があるため、通常の施用量では稲、麦、とうもろこしやイネ科牧草の生産に障害を引き起こす心配はありません。

お問い合わせ先 広島県農林水産局農業技術課
TEL 082-513-3585 e-mail nougijutsu@pref.hiroshima.lg.jp